

■景観の基本理念と基本方針

- 現地調査や町民アンケート調査、検討会議等の結果を踏まえ整理した俱知安町の景観特性と課題等から、以下のように俱知安町の景観まちづくりの基本理念と基本方針を案として整理しました。
- 四季折々に豊かに表情を変える自然に農業をはじめとした産業が発展し、俱知安に暮らす、俱知安で営む人々が生き生きとしている姿がこの町の「美しい景観」となります。私たちの心のよりどころであり、彩り豊かな自然を象徴する「羊蹄山」に見守られ、いつまでも大切にしながら、今よりも暮らしに豊かさを感じて発展していくよう、互いに支え合い、未来へつないでいくことを目指し、基本理念を示します。

基本理念（案）

未来へつなぐ羊蹄の輝き

※「羊蹄の輝き」…羊蹄山によって作られた俱知安の地形や自然環境の上で暮らす・営む人々が生き生きとしている姿。また、四季折々に豊かに表情を変える羊蹄山の姿。

- また、その基本理念を実現するための基本方針（取組の方向性）として、俱知安町の景観を形成する要素ごとに整理します。さらに、基本理念と基本方針の間を取り持つ一人一人が行動を起こす際の「行動指針」と行動のための「意識の持ち方」として、4つの姿勢を示しました。

【行動指針】先人から受け継いだこの大地を大切にし、愛着と誇りを育み、次の世代につなげる

■行動のための4つの姿勢

普遍的
(過去・現在・未来)

- ・ 私たちに恵みと厳しさを与える自然環境をよく理解し、「謙虚」な姿勢を持つ

現在に
対する

- ・ 人とひととのつながりを大切にし、みんなで支え合う「厚情（思いやり）」の行動を持つ

過去に
対する

- ・ 俱知安の風景と文化をつくりあげた先人の思いや取り組みに「敬意」の気持ちを持つ

未来に
対する

- ・ 次世代の人たちがより良い暮らしや営みのために工夫して変化しようとする取り組みに「寛容」の心を持つ

基本方針（案）

1.豊かな緑と水
をいかす

- ・ 羊蹄山とニセコ連峰、緑豊かな森林や河川の環境を守ります。
- ・ 羊蹄山や尻別川など、この町に関わる全ての人の「ふるさと」を象徴する風景を大切にします。

2.四季折々に
表情を変え、
営み豊かな
農業

- ・ 私たちの営みと暮らしを支える農業に関心を持ち、交流を通じて農業とのつながりを大切にします。
- ・ 私たちの「原風景」として記憶に残り、まちの自然と暮らしの豊かさを印象づける農業景観を大切にします。

3.住みよい生活環
境と潤いのある
都市づくり

- ・ 身近にみどりの潤いと街並みの清潔さを保ち、安全安心で住み心地の良い生活環境をつくります。
- ・ 後志地域の中心として、魅力的な市街地の形成に努めます。
- ・ まちを印象付ける自然景観や農業景観を大切にした沿道からの眺望を大切にします。

4.産業や人の営み
を感じる資産の
魅力を高める

- ・ 豊かな自然環境と開発のバランスを取りながら、エリアの価値を高める持続可能なリゾート地景観をつくります。
- ・ 地域の暮らし・産業・歴史を理解し、それらを表す資産を大切に活かします。

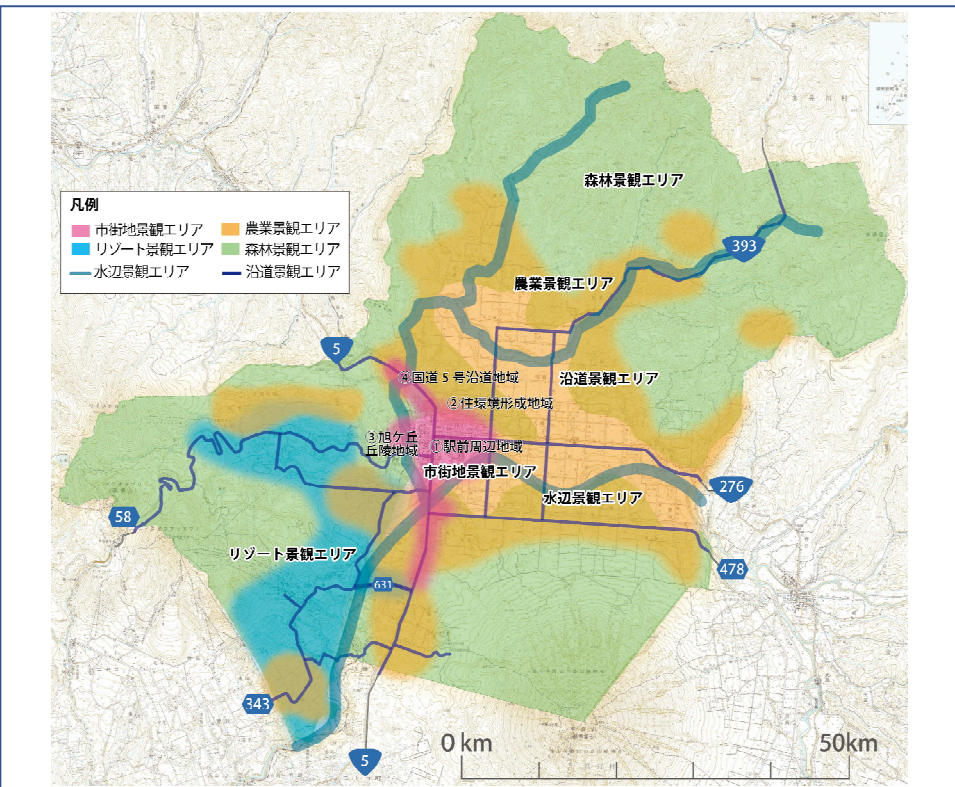
5.育んだ地域への
愛着を次の世代
につなげる

- ・ 道ばたに落ちているゴミを見つけたら拾うなど、私たち自身の日ごろの行動から、心に潤いのある美しい景観文化を育みます。
※景観文化：町民1人1人が、俱知安ならではのふるさとの風景を誇りに想う気持ちを持ち、その風景を守り・活かし・伝えるために行動していること
- ・ 俱知安の成り立ちや歴史、様々な環境を知ることによる「守る」大切さを学ぶ機会と、様々な人が様々な場面でこれらを「伝える」機会を創出し、地域への誇りを育みます。
- ・ 景観資源に触れる体験を創出し、人と人とのつながりを通して今ある資源を「活かす」創造力を養い、この地域に愛着を育みます。

■エリア区分のイメージと景観形成の方向性

- ・ 倶知安町の景観特性と基本方針の展開から、景観計画区域を6つの景観エリアに区分して、景観形成の方向性を整理します。

■エリア区分図



		エリア	景観形成の方向性
面的景観	市街地景観エリア	①駅前周辺地域	生活機能が集積し人々の暮らしが息づく市街地景観エリアは、中心市街地の賑わいと近接する自然を大切に、町民や来訪者のふれ合いや交流が生まれる景観づくりを進めます。 ①駅前周辺地域 ・ 駅施設や駅前広場周辺は、羊蹄山への眺望とみどりの演出によるおもてなしの雰囲気を出し、人の動線を考慮した空間づくりを進めます。また、駅前通りへ人々を導く空間づくりを進めます。 ・ 左右の軸（西3丁目通り）は駅前広場と一体となった空間形成や、おもてなしの街並みづくりを進めます。 ・ 正面の軸（駅前通り）は、歩行を促す居心地の良い歩行空間や、明るい道路空間を確保し、統一感のある街並みをつくります。 ・ 国道5号は緑化によるうおいを創出し、街並みに配慮した屋外広告物の設置を促します。 ・ 通りごとの個性を創出し、歩行者が楽しめるメリハリのある街区をつくりまします。新たな建設計画があった場合は、事前協議の場を用意し、地域で合意を取りつつ建設を進められるような仕組みを検討します。
		②住環境形成地域	・ 豪雪に対応したゆとりある土地利用、くっちゃん型住宅を推進します。 ・ 家の前の緑化や清掃など町民の手で創り出す良好な景観づくりを通して、まちへの愛情を育みます。
		③旭ヶ丘丘陵地域	・ 市街地の緑の拠点となる公園や、街路樹などまちなかにあるみどりのネットワークを広げ、うおいのある景観づくりを進めます。
		④国道5号沿道地域	・ 旭ヶ丘公園から望むまち並みと雄大な山並みの景色を大切に、自然が身近にある倶知安町の豊かな暮らしにつながる景観づくりを進めます。
面的景観	農業景観エリア	④国道5号沿道地域	・ 市街地郊外の都市的土地利用が展開されている国道5号沿道においては、羊蹄山の眺望や周辺の緑豊かな環境に配慮した沿道景観に努めます。
		・ 農地の保全、農業の振興に努め、倶知安の美しい風景である四季折々に変化する豊かな農業景観を大切にします。 ・ 農業景観を観光資源としての魅力を高め、生業としての農業と調和・共生する景観形成を進めます。	
		・ 農業地域やリゾート地域などの背景となる自然の豊かさの要素を持つ森林の保全や活用を進めます。	
		雄大な自然景観や農業景観と、品格のあるリゾート地としてのまち並みが調和した景観形成を進めるため、拠点型・低層（改善）型・低層（維持）型・保全型の4つの考え方で保全や活用を進めます。新たな建設計画があった場合は、事前協議の場を用意し、地域で合意を取りつつ建設を進められるような仕組みを検討します。	
軸的景観	沿道景観エリア	・ 拠点型は、スキー場周辺を中心にリゾート地の拠点となる中高層の宿泊施設や店舗などの集積を促し、質の高いリゾート地を形成します。	
		・ 低層（改善）型は、ペンションビレッジ地区において、スキー場周辺の賑わいを支え、ゆとりのある質の高いリゾート地を形成します。	
		・ 低層（維持）型は、ニセコひらふ地区及びその周辺の幹線道路沿いにおいて、リゾートの受け皿としての機能を持ち、ボリュームを抑えた落ち着いたリゾート地を形成します。	
		・ 保全型は、森林地域や農業地域（リゾート地間を結ぶ幹線道路を含む）において、良好な自然環境の保全を前提とし、リゾート開発にあたっては環境への負荷を抑えて低密度な滞在環境を図ります。宅地形成されている地域は引き続き自然環境と調和した良好な環境を維持します。	
軸的景観	水辺景観エリア	・ 尻別川やその支流は町民の暮らしを支え、観光資源としても重要な役割を持っていることから、豊かな自然環境と暮らしや観光が調和した、魅力ある水辺の景観形成を進めます。 ・ 富士見橋や倶知安橋などの橋梁から、歩行者や車窓から楽しむことのできる水辺への景観を保全します。	

■分野別方針案

1. 電線・電柱・鉄塔（基地局等）

電気・通信は現代の私たちの生活には必要不可欠なツールであり、そのために必要な設備は重要なインフラとなるため、景観への配慮と設置の必要性との調整が求められます。	
（１）携帯電話基地局	
現状	・町内には高さ14.8m～54mまで、約60基設置。 ・郊外では沿道や丘の上などに設置。市街地は道路から少し離れた住宅地の中や建物の屋上などに設置しているケースも見られる。 ・近年、高速・大容量通信を可能とする「次世代通信規格」の普及に伴い、1基あたりの高さを抑えつつ（15m程度）も設置基数が増加傾向。 ・新たな通信会社の参入により新規の基地局の設置がさらに増加が見込まれる。 
<基本方針> 街並みや山並みなどの景観に影響を生じないよう、視点場や景観軸となる道路からの配置や高さなどに配慮し、基地局が乱立しないよう各社共用化を促します。	

（３）送電線	
現状	・峠下から岩尾別、岩尾別から山田方面、岩尾別から市街地、市街地から寒別方面に送電線網が形成。 ・高さは概ね30m台から50m台 ・一部景観軸となる道路沿いに設置、道道蘭越ニセコ倶知安線の一部区間では無電柱化予定。 
<基本方針> 新設時または移設時等において、周辺環境や沿道からの圧迫感などに配慮した配置や高さに努め、特に景観地区などの良好な景観が求められる地域においては、街並み景観への影響を与えないような配置はもとより、状況に応じて地中化を図るなど、周辺の環境に配慮します。	

（４）変電所	
現状	・町内に変電所は2カ所（南4西3、山田）あり、ともに沿道かつ住宅に近接している。 
<基本方針> 新設時または移設時において、設置する周辺の状況に応じて、沿道や住宅からの離れの確保及び植樹による緩衝帯の設置のいずれか、またはその両方による対応により、周辺環境の保全に努めます。	

2. 再生可能エネルギー施設

国における「2050年カーボンニュートラル社会の実現」に向け、再生可能エネルギーの主力電源化及び最大限の導入、そのための規制改革の検討、取組みの加速化が見込まれ、これまで以上に、太陽光発電施設、風力発電施設等の再生可能エネルギー施設の立地が全国的に促進し、農地や森林地域への立地等に係る規制緩和が想定されます。一方で、当町においては特に自然環境に由来する産業（農業・観光業）と暮らしの観点から、面的な広がりや高さの生じる太陽光発電施設と風力発電施設について、景観との調和が求められます。	
（１）太陽光発電施設	
現状	・住宅においては、ソーラーシステムを設置しているものも見られるが、普及している様子は見られていない。 ・メガソーラーなど、売電を目的とする事業用施設（全量売電型太陽光発電施設）は町内になし。 ・倶知安町地域再生可能エネルギー導入ビジョン（H30.3）において、日射量不足及び積雪寒冷等による大規模施設の普及を見込んでいない。（今後技術革新等により、この評価が変わる可能性あり）
参考	・家庭用ソーラー 平均3～5kw 面積 20～30㎡程度。 ・50kw以上の場合、電力会社と高压連系契約を要し、高压受電設備等の設置が必要。 ・メガソーラーは1,000kw以上であることを指す。1,000kwで2ha程度の面積が必要とも。

<基本方針> 良好な自然環境を形成するエリア、産業（農林業・観光業）や住環境に影響するエリア以外への立地を誘導し、隣接地への影響を抑え、沿道景観や眺望景観に配慮します。	
---	--

3. 道路付帯物

現状	・地上から立ち上がっている主な道路付帯物は、標識（交通標識、案内標識）、道路照明、固定式視線誘導柱（矢羽根）、防護柵、防雪柵などから成っている。 ・色彩が不統一の箇所が見られる。 ・無電柱化されたリゾートエリアにおける矢羽根の必要性に対する検証が必要。 
<基本方針> 交通安全の確保を前提に、周囲の景観を踏まえた色、配置に配慮するとともに、設置必要性の検証や機能を損なわない構造への変更を促進します。	

（２）配電線・電信線	
現状	・郊外の道路において、配電線・電信線（以下、「電線等」）が共架されず、道路の両サイドに電柱・電線が設置されている区間がある。 ・景観軸となる道路において視対象側に電柱・電線が設置されている区間がある。なお、過去に電柱・電線の更新に合わせて電線管理者と協議し、眺望に影響しない位置に移設した事例がある。（国道276号八幡ビューポイントパーキング） ・町内の国道・道道・町道における無電柱化区間は約5.6km ・景観地区内での近年の開発行為地では無電柱化されているところがほとんどである。 ・通常、国道・道道・町道の無電柱化には、電線共同溝方式が採用され、整備費が高額となること、関係者による負担方法の調整などにより、完成までに長期間を要する。 

<基本方針> 防災上の安全性や街並みの景観形成が求められる道路について、無電柱化を計画的に推進します。美しい風景を望める視点場や景観軸（道路）においては、視対象への眺望を妨げないよう電線等の共架や移設などの効率かつ効果的な手法を検討・活用します。	
--	--

（４）変電所	
現状	・町内に変電所は2カ所（南4西3、山田）あり、ともに沿道かつ住宅に近接している。 
<基本方針> 新設時または移設時において、設置する周辺の状況に応じて、沿道や住宅からの離れの確保及び植樹による緩衝帯の設置のいずれか、またはその両方による対応により、周辺環境の保全に努めます。	

（２）風力発電施設

現状	・当町には風力発電施設はない。 ・倶知安町地域再生可能エネルギー導入ビジョン（H30.3）において、近傍の送電線空き容量に余力が無いこと等から、町内での風力発電の利用可能量をゼロと評価。（今後技術革新等により、この評価が変わる可能性あり）
参考	・風況に関しては「環境省風況マップ」において、ニセコ連峰、羊蹄山、赤井川境界・本俱登山エリアの3地域が風速の高い結果が得られている。 ・低周波などによる健康面や農林業、自然環境への影響などの懸念。

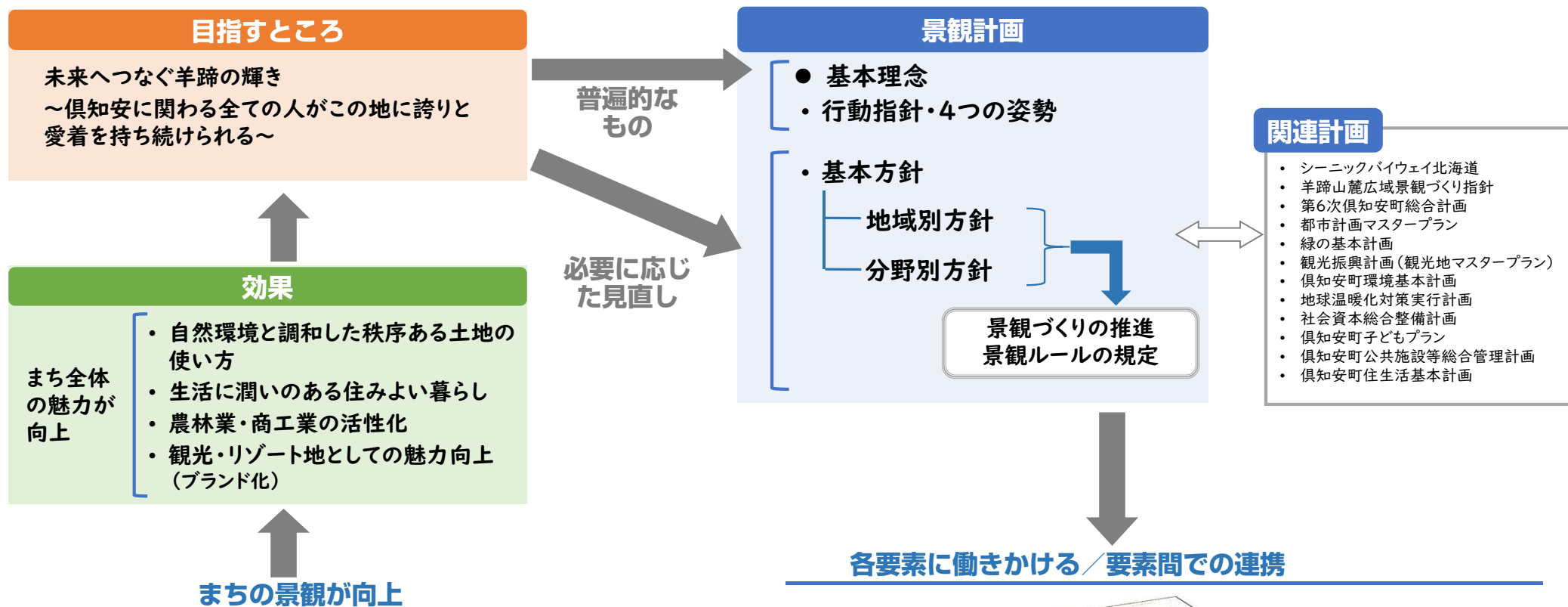
<基本方針> 良好な自然環境を形成するエリア、産業（農林業・観光業）や住環境に影響するエリア以外への立地を誘導するとともに、高さのある施設においては、視点場や景観軸となる道路からの視対象への眺望方向、景観軸となる道路の視線範囲以外への立地を誘導します。	
---	--

4. 屋外広告物

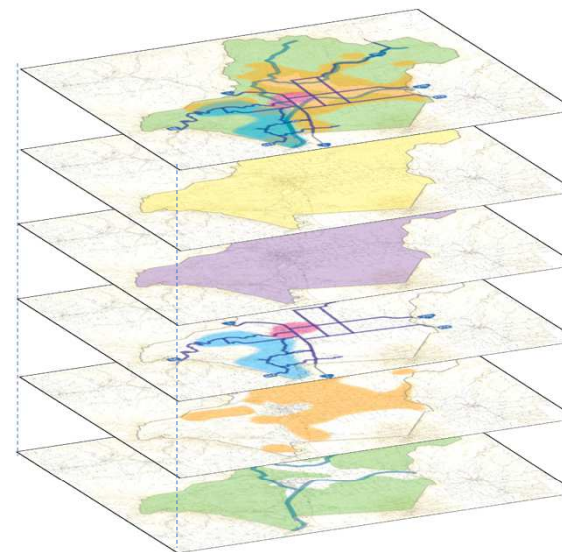
現状	・無電柱化されている国道5号（北3条・南3条区間）やリゾートエリア（いちむら交差点・AYAニセコ間）では、高さや表示面積の大きな地上広告物が目立つ状況。 ・駅前通りでは広告物の統一感に乏しい印象。 ・屋上に設置している広告物は少ない。 
<基本方針> ひとの目線を基本とした建物と調和の取れた配置、高さ、意匠とし、特に景観軸や視点場からの羊蹄山・ニセコ連峰などの美しい山並みの眺望に配慮します。	

■景観まちづくりの効果

- ・ 景観計画の基本理念等に向けて、行動指針を実行し各要素の質を高めていくことで、基本理念が実現し、倶知安町全体の景観が向上することにつながります。
- ・ 景観が良くなると、各要素の保全、経済発展、継承などの効果が還元するというサイクルが生まれます。



各要素が
重なり合った景観



■倶知安町の景観

5. 人々の愛着・文化
4. 暮らし・産業
3. まちの基盤
2. 農業
1. 自然・地形